

病理学 生々

No. _____

DATE . .

- ・ アミロイドーシスの前駆体タンパク質について
 - ① 多発性骨髄腫 → 免疫グロブリン軽鎖
 - ② 全身性老人性アミロイドーシス → トランスサイレチン
 - ③ 透析アミロイドーシス → β_2 ミクログロブリン
 - ④ 神経性アミロイドーシス → 血清アミロイドA
 - ⑤ アルツハイマー病 → アミロイド β

※ アミロイドーシスについて

・ 全身性アミロイドーシス

老人性TTRアミロイドーシス	トランスサイレチン
免疫細胞性アミロイドーシス	
- AL アミロイドーシス - AH アミロイドーシス	免疫グロブリン軽鎖 κ ス “ “ “
反応性AAアミロイドーシス	アポ α AA
家族性アミロイドーシス	トランスサイレチン
透析アミロイドーシス	β_2 ミクログロブリン

・ 局所性アミロイドーシス

脳アミロイドーシス	
- アルツハイマー型認知症 - アミロイドアンギオパシー	アミロイド β “ “
遺伝性アミロイド性脳出血 (オランダ)	“
“ (アイスランド)	シスタチンC
プリオン病	プリオン蛋白
内分泌アミロイドーシス	
- 甲状腺骨髄様ガン Ⅱ型糖尿病・インスリンマ - 限局性心筋性アミロイド	プロカルシトニン アミリン ANP
皮膚アミロイドーシス	ケラチン
限局性結節性アミロイドーシス	L鎖

7mm×34行

No. _____

DATE . .

・ 萎縮・壊死・変性について

・ 萎縮

- ・ 加齢 / 低栄養による
- ・ 虚血性萎縮
- ・ 神経性萎縮
- ・ 内分泌性萎縮

・ 褐色萎縮 (リポフスチン沈着による) ※ 肝ヘモジデローシスは鉄沈着による

・ 壊死 (循環障害・梗塞 / 物理的因子 / 化学的因子 / 感染)

・ 凝固性壊死

・ 高虫解壊死 (壊死組織の吸収) 脳梗塞とか

・ 壊疽

- 細菌感染を伴う
- 湿性壊疽
- 乾性壊疽

・ 変性

・ アミロイドーシス

・ 石灰変性 (血清タンパク質沈着)

・ 黄線維素変性 (フィブリンの沈着) 結節性動脈周囲炎

・ 粘液変性 (粘液様物質の沈着)

・ 代謝異常症について

・ 先天性代謝異常

先天性アミノ酸代謝異常症 (フェニルケトン尿症 / ヌーアールニロツ α 尿症 / ホモシステチン尿症)

先天性脂質蓄積症

糖原病

遺伝性ムコ多糖症

銅代謝異常 (ウィルソン病 / メンケス症候群)

鉄代謝異常 (原発性ヘモクロマトーシス)

ビリルビン代謝異常 (作質性黄疸)

・ 多因子性代謝異常

肥満

糖P*病

脂質異常症 (高脂血症)

核酸代謝異常 (痛風)

腎不全 (尿毒症)

7mm×34行

No.

DATE

・血栓症 / 塞栓症について

部位 疾患

頸動脈分岐部 粥腫

左心耳 心原性血栓塞

冠動脈 冠動脈血栓症 (粥腫 + 血栓症)

下肢動脈 閉塞性動脈硬化症 → 敗血症

FMA深部静脈 深部静脈血栓症 → 両側月市動脈血不全塞栓症

上腸間膜動脈 腸管士壊死

・門脈圧亢進症について

・原因 ① 門脈血栓症 ② 肝硬変 ③ バッド・キアリ症候群

・症状 ① 門脈シャント (門脈から大動脈系へ)

・胃食道静脈瘤

・直腸静脈瘤

・腹壁静脈瘤

② 月復水

③ 脾腫 脾機能亢進症 (赤血球減少症)

・血栓症と塞栓症

・血栓症: 血管内皮の障害 etc. により血管内に凝結血塊が生じること

・塞栓症: 血栓 etc. が末梢でつまること。つまった血栓を塞栓という。

・充血とう血

・充血: 毛細血管拡張 (自発的反應)

・う血: 流出障害に伴い、毛細血管拡張 (受動的反應) X フェノーセ"

・梗塞と虚血について: 虚血は軽度・梗塞は高度の血液不足

慢性虚血は側復血行路が発達する

梗塞 (貧血性 / 出血性) ① 動脈硬化 ② 血管炎 ③ 血栓 ④ 塞炎

・浮腫について

① 細胞間間質に水分が増加した状態

② 腔水症 (体腔に水がたまると)

③ リンパ管閉塞

④ 毛細血管壁透過性亢進

~~⑤ 低タンパク血症~~

⑥ 低タンパク血症

⑦ 右心不全

7mm×34行

3

No.

DATE

・月市高血圧症について

・急性肺高血圧症: 急性肺動脈血不全塞栓症

・慢性肺高血圧症: 原発性
左→右シャントを伴う先天性心疾患
慢性肺動脈血不全塞栓症
慢性閉塞性月市疾患・肺線維症

・炎症細胞について

血液中

組織中

好中球 (11YY-4p 貪食) → そのまま

好酸球 (アレルギー反応) →

好塩基球 (?) 肥満細胞 (アレルギー反応: ヒスタミン放出、浮腫)

リンパ球 (免疫反応) 形質細胞 (免疫グロブリン産生)

単球 (免疫反応) マクロファージ (貪食・サイトカイン放出)

骨髄巨核球 (?) 血小板 (血栓作成)

・炎症の種類

・化膿性炎症 (好中球主体)

・虫歯: 菌が結合組織間に広範囲に炎症が広がる

・膿瘍と蓄膿 のちう: 膿瘍腔にうみがたまる

蓄膿: もともとある空洞にうみがたまる

・瘻孔: 他と交通がでる

・壊疽性炎症: 感染に伴う急性壊死性炎症

・慢性炎症 (リンパ球主体)

・ウイルス感染

・自己免疫性

・化膿性炎症のはおりのけ 例

例) 慢性ウイルス性肝炎 / 慢性間質性月市炎 / 慢性甲状腺炎 (橋本病)

・肉芽腫性炎症

・類上皮肉芽腫の形成を伴う

類上皮細胞: マクロファージ由来・多核巨細胞化

・マイコバクテリウム感染 (結核・ハンセン病・非結核性抗酸菌)・梅毒

・真菌感染

・酸・金属

・サルコイドーシス / 病

・はかに、滲出性 / 漿液性 / 線維素性

7mm×34行

↑ 糸状毛心

4

No.

DATE

・結核について。

肉芽腫性炎症のひとつ。

乾酪性肺炎・ランゲルハンス型多核巨細胞(類上皮細胞?)・初期変化若羊がみられる。

⇒乾酪壊死。

・アレルギー疾患について。

I型(アナフィラキシー型) ペニシリンショック・じんましん

II型(赤血球障害性) 不適合輸血・橋本病・自己免疫性溶血性貧血。

III型(免疫複合体型) 血管炎・血清病。

IV型(遅延型) ツバ・喘息・移殖。

V型→(IIと殆ど同じ)。バセドウ病。

・腫瘍について。

がんは体細胞の遺伝子変異の集積で生じる。

⇒蓄積すると遺伝的不安定性も。

・がん転移(播種/リンパ行性/血行性)

①リンパ行性転移

中央へはリンパ管の合流地点:左鎖骨下静脈⇒ウイルスやリンパ節

...内臓のがんが最初に表在リンパ節に転移すること。

②肝転移

胃腸管・肝臓など門脈系のがんは肝臓。

③肺転移

腎・骨盤臓器・乳腺などの大動脈系のがんは肺臓。

④脳転移

肺は全身・よく脳に転移する。

・がんの組織型

①癌腫(狭義のがん):上皮系の悪性腫瘍

腺がん/扁平上皮がん/小細胞がん/未分化がん/乳腺上皮がん

②肉腫:間質系の悪性腫瘍

・がんの進展(異形成/上皮内がん/浸潤がん・早期or進行)

a.)子宮頸がん 浸潤がん

b.)胃がん → 粘膜固有層・粘膜下層におさまる:早期胃がん

→ 筋層以上:進行胃がん。

No.

DATE

・ウイルス感染を伴うがん(腫瘍ウイルス)

・DNAウイルス

ヒトパピローマウイルス(HPV) → 子宮頸がん

B型肝炎ウイルス(HBV) → 肝細胞がん

EB(Epstein-Barr)ウイルス → リンパ腫・鼻咽頭がん・胃がん

ヒトヘルペスウイルス8型 → カポシ肉腫

・RNAウイルス

成人T cell 白血病ウイルス → 成人T cell 白血病・リンパ腫

C型肝炎ウイルス(HCV) → 肝細胞がん

・新生物 → 病理学的には腫瘍と同義

肉腫・乳腺腫はこれ。

肺気腫・肉芽腫・肉腫などはちがう。

*悪性新生物の特性又。↔ 良性は抑制性増殖をする。

・不整であり。

・細胞配列の極性があり

・細胞異型が強い

・転移する。

・浸潤性増殖

・がんの4つの原因。

a.)化学的:喫煙(芳香族炭化水素) → 口腔・咽頭・食道・胃・鼻腔・副鼻腔・肺・肝・脾・子宮頸・尿路・骨髄性白血病

アフラトキシン(カビ) → 肝細胞。

金属(Cr・Ni・As など)

b.)物理的:紫外線・色素性乾皮症 → 皮膚

放射線 → 甲状腺・乳・肝臓

石棉(アスベスト) → 肺線維症・悪性中皮腫・肺癌

肝吸虫 → 胆管細胞がん。

・組織型がんの分類。

①腺がん:腺管構造の形成/粘液産生。

②扁平上皮がん:角化(ケラチンフィラメント)/細胞間橋

③小細胞がん:小型の腫瘍細胞で、核・細胞質が小さい/電顕では神経内分泌顆粒

④乳腺上皮がん:角化・管腔を伴わない集塊

No. _____

DATE . .

- ・各臓器ごとに発生する頻度の高い組織型がん。

a.) 消化器

口腔 }
咽頭 } 扁平上皮
食道 }
胃 }
小腸 } 腺
大腸 }
肛門 } 扁平上皮

タバコの影響
↓

b.) 肝・すい

肝 → 肝細胞がん・腺がん
すい → 膵臓細胞がん・腺がん
胆 → 腺がん。

c.) 呼吸器

鼻・副鼻腔 }
喉頭 } 扁平上皮 not 小細胞。
気管・気管支 }
肺 → 扁平上皮・大細胞・腺・小細胞。

d.) 泌尿器

腎 → 腎細胞がん・(グラビッツ腫瘍・小児ウイルス腫瘍)
腎盂 }
尿管 } 移行上皮
膀胱 ~~移行上皮~~
尿道 → 扁平上皮

e.) 生殖器官

前立腺 (腺がん) 子宮体部 (腺がん)
陰茎がん (扁平上皮がん) " 頸部・子宮 (扁平上皮がん)。

f.) その他

皮膚 → 扁平上皮 (ボウエン病) / 悪性黒色腫
皮膚付属器・乳腺 → 腺がん
脳 グリア：膠芽腫 脳神経：脳神経腫
神経系細胞はなし!

No. _____

DATE . .

g.) 造血器

・骨髄 (骨髄球・赤芽球・巨核球) → 骨髄系白血病
(リンパ球) → リンパ系白血病
(形質系細胞) → ~~多発性骨髄腫~~ 多発性骨髄腫

・リンパ節 → 悪性リンパ腫
・脾 → 悪性リンパ腫
・骨軟部腫瘍 血管肉腫?

骨腫瘍：骨腫～骨肉腫

軟骨腫瘍：軟骨腫～軟骨肉腫

糸状結合組織：神経腫～神経肉腫

脂肪肉腫：脂肪腫～脂肪肉腫

最後だけインク切れてペンクになっちゃいました。

特別大切なことかいう言じゃいいます。

急いで作らねえ。写真もつかさどってあげません。